

周波数ひっ迫対策技術試験事務・平成23年度終了評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
大ゾーン方式無線システムにおける高密度周波数共用技術に関する検討	H21-H23	<ul style="list-style-type: none"> ・大ゾーン方式のネックである不感地対策と、空間的ホワイトスペースの有効利用に関する技術試験事務であり、周波数有効利用の観点からは極めて有益な成果が得られている。 ・タクシー無線に代表される大ゾーン無線システムの周波数共用技術の重要性は高い。 ・得られた成果をどのように技術基準の策定に結び付けるのか、その展望や提言が必要である。 	3.5
周波数再編に向けた電波利用に係る電波雑音に関する調査	H21-H23	<ul style="list-style-type: none"> ・日本特有の電波雑音状況を詳細に分類調査しており、電波利用料技術試験事務として十分目的を達している。 ・現在使用中の帯域における雑音測定法の確立、及び得られた雑音特性の分析手法の確立は、共に周波数有効利用のための周波数の再配置の際には必須の事項であり、本技術試験事務で得られた成果の有益性は高い。 ・今後の技術基準査定に当たり、有力な根拠となり、電波政策上の意義は非常に大きい。また、本データは今後研究開発を進める上で、基礎データとして利用できる。 	4.1
超広帯域デジタル信号解析技術を用いた無線設備試験法に係る調査	H21-H23	<ul style="list-style-type: none"> ・本技術試験事務では、広帯域デジタル測定器に対する基本的な要件、従来の測定器および測定法との相違、現状での広帯域デジタル測定器間の差異等が明らかとなり、有益な成果が得られている。 ・本技術試験事務により、無線LAN、モバイルWiMAX等の広帯域無線機の特性試験を行う目処がついたと考えられ、特性試験の試験方法に反映できると考えられる。 ・これまでの技術基準との整合性をとるために必要データが取られている。今後、計測の現場における混乱が回避できる。 	4.1